

令和元年度 小笠原諸島森林生態系保護地域部会  
第2回 小笠原部会 議事概要

日時：令和元年度 11月15日（金）10:00～12:00

場所：（父島）小笠原世界遺産センター会議室

（母島）小笠原村母島支所会議室

（内地）小笠原村東京連絡事務所2階会議室

1. 小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理計画の改定について

- ・保全管理計画に基づいてこの10年間事業を行った成果はあると評価できる。
- ・ここで検討する保全管理計画は、大筋の考え方や方向性を示すものとあるが、生態系修復計画の中で計画的に実施していくこととするのであるならば、（父島のノヤギ排除後の駆除については、）何かしら今回の計画に盛り込んで実施の担保してもらいたい。
- ・部会の下に現地連絡会や今休止中の利用専門会議、修復事業検討委員会（アドバイザー会議機能も引き継ぐ）などがあるが、基本的に部会の下に吊り下がっているのか。要綱や通知によって柔軟に運用してもらいたい。
- ・この管理計画の次の改定はいつぐらいのスケジュールを考えているのか。
- ・保護林制度はほとんどが貴重な原生な状態の所を囲って、それを管理するという考え方で続いていた。しかし小笠原は、貴重な動植物や生態系を外来種から守りつつ、森林を回復するという保護林である。複雑な生物のつながりや人為の影響等も含めて、人間の側から見ただけでなく、人間が作業した結果、変化してきたものについての情報もきちんと評価するという視点が大切であることを、どこかに付帯として記載してもらいたい。
- ・母島と父島で開催された住民説明会では、利用の仕方や具体的な話について住民がいろいろなことを考えていることが分かった。現地連絡会ではスケジュールが急すぎるのではないかという意見もあった。
- ・現地連絡会の中で、部会の在り方などにも言及されており、父島の観光協会が今年から本部会の委員就任をボイコットしているという発言があった。今後の林野庁の対応はどうか。小笠原村としても観光協会の方と意見交換して関係改善の努力をしてみたい。
- ・現地連絡会では、アカデミックな話や政策的な話もその場で議論できるよう、例えばテレビ会議で清水先生と部長に参加してもらおう方法等を検討してもらいたい。
- ・指定ルート設定の理由や目的を知らない人が増えてきたため、改めて島民に利用周知を分かりやすく説明する必要があるのではないか。
- ・関係団体の意見を踏まえて指定ルートの見直しをすることとあるが、これをどこでやるのか、スケジュールがどうなっているのか。

- ・指定ルートの見直しで今回の計画はその大枠を決めたことは理解できる。ぜひ次回この見直しにあたり、この部会で全てを議論するのではなく、どういうメンバーでたたき台を作るのか、いつの段階で村民や関係団体の意見を聴くのかといったことのフローを作成し、議論してもらいたい。そのスケジュール感を次回の部会で合意を取る必要があるのではないか。
- ・ギンネムの駆除の方法は事業だけでなく、ボランティアを募集して密集地帯のギンネムの蕾や花を取る方法も試行したらどうか。
- ・父島のノヤギ駆除は、東京都と村がもっと広範囲にヤギを駆除するようなシステムを作って実施しないと絶滅できないのではないか。

## 2. 小笠原諸島森林生態系保護地域に係る主な事業等について

- ・オガサワラカワラヒワは今年度誤食防止など新しい試験を実施しているが、それが来年度にどうつながるか伺いたい。現状では、モニタリングをしているだけであり、緊急に何か大きな具体的な行動を起こさないと絶滅するのは目に見えている。
- ・林野庁ではオガサワラカワラヒワのモニタリング調査を10年間ほど継続しているが、ドブネズミの影響が大きい。ネズミ対策は関係省庁が全体のプログラムを明確にできていないことから、この後どこ管理機関・関係団体が何をしていくかを緊急かつ具体的に考える必要がある。
- ・野鼠対策は林野庁でも内地で造林木を守るための対策を従来から行っているので、できないこともないのではないか。
- ・台風21号により、母島は全島的に指定ルートの歩行が困難な状況になっている。父島も含め、今後指定ルートについては、除去等処理を進めていってもらえるのか。
- ・台風21号により、オガサワラカワラヒワやオガサワラシジミの餌木のダメージや営巣場所が壊れるなど、生息環境に多大な影響を与えた可能性がある。そのため、緊急モニタリングを実施することを検討してもらいたい。
- ・母島石門のタイヨウフウトウカズラやヒメタニワタリなど種の保存法指定種の希少植物が台風によりさらにも激減している状況であることから、遺産関係の関係機関や管理団体としてどのような対応をされるのか。
- ・オガサワラシジミは20数年前、弟島調査の際に研究者とともに確認したことから、昆虫の専門家に調べてもらったかどうか。
- ・小笠原村が開催した世界自然遺産に関する意見交換会は、住民の要望を集める場所でもあったことから、今後もこれを念頭に置いて取り組んでももらいたい。
- ・弟島のシマグワがハイブリット化している。孫島にシマグワが生育していることから、

花粉が飛んできている可能性があるため、孫島のシマグワを根絶しなければいけない。

### 3. その他

- ・台風 21 号は自然現象であり森林などが大きな攪乱を受けているが、基本的には放置でいいと思う。しかし、絶滅危惧種の生息・生育が決定的な打撃にならないよう留意をする必要がある。また、外来種がこの攪乱に乗じて広がる可能性があるため、その辺りを留意して対応する必要がある。
- ・外来種駆除対策マップの作成は、どの場所でどのくらい駆除が進んでいるかが分かり大変ありがたい。父島列島に関しては関係省庁の事業箇所が入っているが、母島は林野庁事業だけなので、環境省等の情報も入れて作成してもらいたい。
- ・林野庁の修復事業の成果については、定期的に住民向け説明会を実施してもらっていることはすごく大事なことだと思う。できれば他機関も一緒にやってもらいたい。